厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）
分担研究報告書

認知症者の在宅生活を維持する非訪問型の生活評価・介入システムの標準化に関する研究

研究分担者：釜江(繁信)　和恵　（公益財団法人浅香山病院 精神科　認知症疾患医療センター　精神科部長・認知症疾患医療センター長）
研究協力者：島 宏和　林 竜太　濵田麻祐子　勝田紳太郎　松原大輝　中島華菜
山中 涼　佐々木陸　小玉桜南　新城美紀　三好豊子　山本朝美
（公益財団法人浅香山病院）

研究要旨：認知症者の在宅生活を維持する非訪問型の生活評価・介入システムの導入

A．研究目的

本研究では自宅写真を撮 ってもらい、回収した写真から生活を評価する非訪問型の生活評価システム「Photo Assessment(以下 、PA)」、患家にあるパソコンやタブレットを Zoom などのオンライン会議システムで病院
とつなぎ、画面越しに生活指導を行う「Online-Management(以下、O-MGT)」の標準化が目的であるが、これまで開発を行なってきた機関は大学病院である。そのため 2023 年度は一般病院の外来認知症患者・介護家族に導入するにあたり、導入を阻害する可能性のある要因を検討した。それによりこれまでに訪問看護・訪問リハビリの経験のない患者・家族に PA/O-MGT を実施する場合には、導入時によりその効果も含めより丁寧な説明が必要であること。介護者が高齢である場合にはオンライン会議システムの使用に何らかの支援が必要であることがわかった。そこで今年度それらの阻害要因の少ない対象者を選定し実際の加入を開始した。

B. 研究方法

当科外来に 2023 年 12 月に当科物忘れ外来通院したアルツハイマー病患者で、訪問看護あるいは訪問リハビリを受けた経験のある患者（CDR0.5-CDR1）、あるいは日常的に家族が zoom 等のオンライン会議システムに慣れている者に本研究のへの参加を呼びかけた。

(倫理面への配慮)

本研究は外来診療の一環として行われ、当院の倫理委員会の承認を得て実施した。

C. 研究結果

期間中に外来受診した（CDR0.5-CDR1）のアルツハイマー病患者は 61 名であった。そのうち訪問看護あるいは訪問リハビリを受けた経験のある患者は 18 名、家族がオンライン会議システムに慣れている者は 8 名であった。両方に合致する者は 1 名であった。そのうち 5 名から同意が得られた。5 名の内訳は、5 名全員が家族がオンライン会議システムに慣れている者であった。訪問看護あるいは訪問リハビリを受けた経験のある者は 1 名であった。その後順次 O-MGT の実施を開始している。現在 2 名が実施中である。実施中の 2 名の感想としては、対象患者および家族からは「実際の場面を見てもらいながら相談できるのが良い」「直接訪問では埃や臭いなども気になり事前に掃除をする必要がある、遠隔で

あればその必要がない。」という感想を得た。実施者側から「10 回の介入が必ず必要ではない場合もあるのではないか」「実施者主導で対話行う傾向が強い」「埃や臭いなどがわからない」といったものが上がった。

D. 考察

主介護者が既にオンライン会議システムの使用慣れている場合は参加への意欲も高く O-MGT の介入意義も感じているようであった。

E. 結論

O-MGT を円滑に導入するには既に家族がオンライン会議システムの使用慣れている者に実施導入が行いやすいことがわかった。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Tamami Shiba, Miyae Yamakawa, Yoshimi Endo, Kenjiro Komori, Kaori Umezaki, Yasushi Takeya, Kazue Shigenobu, Satoshi Tanimukai. Communication-related experiences of individuals in the early phase of semantic dementia and their families: an interview study. Psychogeriatrics. Volume24, Issue2.March 2024.281-294.
2. Yuto Satake, Daiki Taomoto, Maki Suzuki, Kazue Shigenobu, Hideki Kanemoto, Kenji Yoshiyama, Manabu Ikeda. Complex cases with suspected dementia in the community need psychiatric support: Results from a nationwide survey in Japan. Asian Journal of Psychiatry. Volume 91, January 2024, 103840.
3. Taomoto D, Sato S,Kanemoto H, Suzuki M, Hirakawa N, Takasaki A, Akimoto M, Satake Y, Koizumi F, Yoshiyama K, Takahashi R, Shigenobu K, Hashimoto M, Miyagawa T, Boeve B, Knopman D, Mori E, Ikeda M. Utility of the Japanese version of the Clinical Dementia Rating® plus National Alzheimer's Coordinating Centre Behaviour and Language Domains for sporadic cases of frontotemporal dementia in Japan. Psychogeriatrics. 2024,24(2),281-294
4. Tamami Shiba, Miyae Yamakawa, Yoshimi Endo, Kenjiro Komori, Kaori Umezaki, Yasushi Takeya, Kazue Shigenobu, Satoshi Tanimukai. Communication-related experiences of individuals in the early phase of semantic dementia and their families: an interview study. Psychogeriatrics. 2023 May;23(3); 466-474.
5. Mori K, Shigenobu K, Beck G, Uozumi R, Satake Y, Suzuki M, Kondo S, Gotoh S, Yonenobu Y, Kawai M, Suzuki Y, Saito Y, Morii E, Hasegawa M, Mochizuki H, Murayama S, Ikeda M.

A heterozygous splicing variant IVS9-7A ＞ T in intron 9 of the MAPT gene in a patient with right-temporal variant frontotemporal dementia with atypical 4 repeat tauopathy. Acta Neuropathol Commun. 2023, 11(1)130

6. 繁信和恵. 認知症疾患医療センターで精神科医が期待に応える術と心得. 精神科治療学. 2024；３９（２）：213－218.
7. 吉山顕次, 繁信和恵. 器質性症候群へのいざない オルゴール時計症状. 月刊精神科. 202３;42:380-388.
8. 繁信和恵. 認知症の BPSD に対する精神科での入院治療. 精神科臨床 Legato. 202３; 9（１):31-35.

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし